特集

いま、倉橋と出会う 9

倉橋惣三（一八八二―一九五五）は子ども・保育研究の先駆者であり、日本の就学前教育における遊び児童中心主義を確立したといわれる。主著書に『幼稚園雑草』『就学前の教育』『幼稚園真諦』『子供讃歌』などがある。大正期から戦後にかけて、本誌の編集主幹を長く務めた。没後五十五年を迎える今年、特集「いま、倉橋と出会う」を企画した。倉橋の珠玉の言葉や一節を手がかりに、身近な保育実践を振り返り、現代の保育観を問い直す機会にしたい。倉橋と同時代に生きた研究者、保育者へのインタビューも紹介する。

さながら

もちろん教育目的なくして教育はありません。しかも、その目的を必ずしもこちらから押しつけなくとも、幼児の生活それ自身が自己充実の大きな力を持っていることによって、すでにそこに教育の目的に結びつくつながりが見い出せるはずです。つまり、幼児の生活をさながらにしておくのは、ただうっちゃり放しにしておくということでなく、幼児自身の自己充実を信頼してのことです。それを信頼してこそそれを十分実現させてやることが出来るのです。

倉橋惣三文庫1『幼稚園真諦』フレーベル館　二〇〇八年　p.31-32